

# 社団法人私立大学情報教育協会

## 平成 20 年度第3回栄養学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日 時 : 平成 21 年 1 月 24 日(土) 午前 10 時～12 時まで  
II. 場 所 : 私情協事務局会議室  
III. 出席委員: 武藤委員長、中川委員、酒井委員、小野坂委員、石崎委員、室伏委員、井上委員  
事務局出席者: 井端事務局長、森下主幹、恩田職員

### 資料 1. 分野別委員会の活動について

2. 分野別『学士力』考察の中間報告(お願い) 平成 20 年 11 月 17 日
3. 各専攻分野を通じて培う『学士力』学士課程共通の『学習効果』に関する参考指針
4. 人材育成産学連携構想の具体化 平成 20 年 12 月 9 日
5. 修了者が身につけるべき能力示す ○中教審が「学士教育の構築」で答申
6. 英国 QAA による分野別のベンチマーク・ステートメント
7. 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会分科会の構成案  
課題別委員会委員のリスト 北原和夫先生中心に行われている
8. LTD 話し合い学習法の原理
10. 新年賀詞交換会名簿
11. 栄養学教育 FD/IT 活用研究委員会委員名簿

### 報告事項

#### 1. 学士力の詳細設計について

今年度検討した最低限身に付けるべき能力(栄養学士力)の今後の具体的検討事項について事務局より説明があった。私情協は学士力と教員の教育力について取り組んでいく予定であり、特に学士力の明確化、共通力を含めた学士力の詳細設計、コア・カリキュラムのイメージ、能力判定の測定方法を来年度中 12 月初めにはまとめていくことが示された(資料2)。

また、私情協における栄養学を含めた 25 の委員会の分野別「学士力」考察の中間報告を文部科学省の担当部署に提出した報告があった(資料2)。日本学術会議は 3 つの分科会があり、今秋にはいくつかの分野別学士力を提出予定である。詳しい日程は資料参照(資料 7)。また日本学術審議会は英国 QAA(資料 6)の評価基準を参考にしている。

#### 2. 産学連携の具体化に向けた検討

私情協では大学教員と産業界等の関係者による人材育成に対する意見交換の場を設けるために「産学連携推進プロジェクト」を発足していく予定である。年に 1～2 回のサイクルで継続的に開催できるようにする。教員のインターンシップも検討中である(資料4)。

### 検討事項

#### 1. 栄養学の学士力を達成するためには共通能力の中で必要なこと

(下記は各委員の意見等である。)

- ・コミュニケーション能力。
- ・栄養学系では栄養士の資格取得優先で、学問でないもの教育するのは難しい。また、資格が前提でないと学生を確保できない。現状は職業教育に偏っている。
- ・教養の時間があまり取れないため、教養教育が出来ないうえ、教養の教員が減少している。
- ・学生に問題意識をどうやって持たせるのかが問題。最近の学生は、興味があるものは積極的にやるが、興味がないものはやらない傾向がある。コミュニケーション能力も不足しているが、日本語が出来ていないうえ数学、物理等も学習しておらず、集中力も欠けている。

- ・知識がない→問題意識が持てない→無気力 これをどう解決するかが問題。
- ・栄養学分野では、管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)がコア・カリキュラムとしての大学間共通の認識を得られているものの、法律により講義科目、演習科目問わず同時に授業を行う学生の数が40名と指定されており、私立大学の教員にとっては大きな負担となっているとの問題点が指摘された。特に講義の場合には、倍の80名にしても授業実施に支障がなく、特にITを導入すれば2教室に同時配信することも可能であることから、次年度内に同内容による40人授業と40人×2クラスの同時配信授業を実施し、相互の授業効果を測定する。また授業効果に相違がない場合には、制度改革に向けて関係機関に働きかけていく事にした。

## 2. 今後の方針

次回の委員会で判定基準や評価方法を決定する。

## 3. その他

次回の委員会開催日:平成21年3月26日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで